



—感じる美術—

広尾学園高等学校

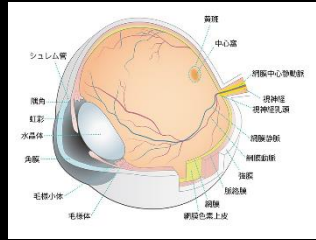
仲 千尋

青野 純怜

菅野 遥日

この研究で視覚が正常な人も
そうでない人も中間の人も誰もが
楽しめる視覚に関してバリアフリーな
美術作品の作成を目指す。

これらのいずれかが
故障するだけで
目の病気になる。
他の病気の**副作用**が
目に及ぶ可能性もある。



目の病気,
日本眼科学会より引用

障害程度等級表

級別	障害程度
1級	両眼の視力が0.02以下かつ他方の眼の視力が0.02以下のもの
2級	両眼の視力が0.02以下かつ他方の眼の視力が0.02以下のもの
3級	両眼の視力が0.02以下かつ他方の眼の視力が0.02以下のもの
4級	両眼の視力が0.02以下かつ他方の眼の視力が0.02以下のもの
5級	両眼の視力が0.02以下かつ他方の眼の視力が0.02以下のもの
6級	視力の良い方の眼の視力が0.3以上0.6以下かつ他方の眼の視力が0.02以下のもの

障害程度等級表によると
6級「資料区の良い方の
眼が0.3以上0.6以下かつ
他方の眼の視力が
0.02以下のもの」

→健常者と視覚障害者の
境目はグラデーション

視覚程度等級表より引用

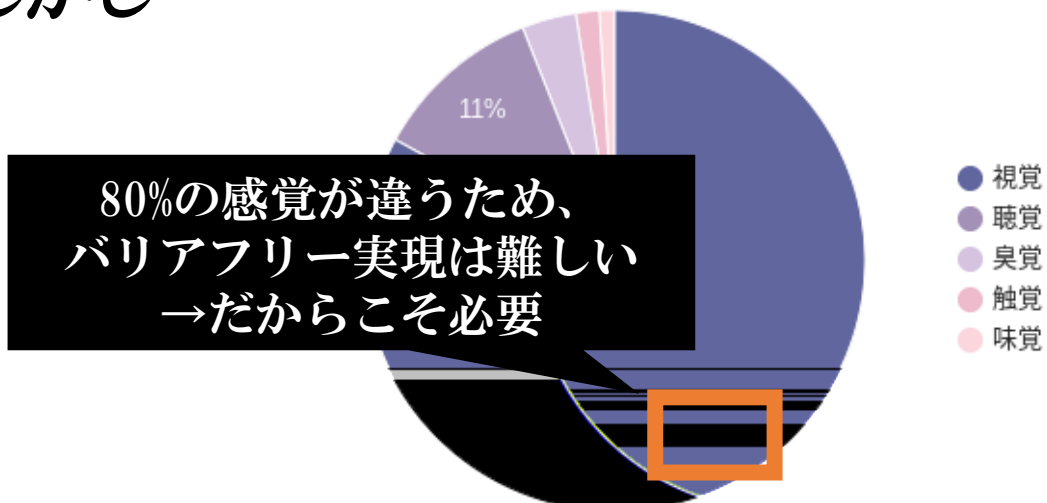
作品で感じることができる五感は

触覚

聴覚

しかし...

五感による知覚の割合



80%の感覚が違うため、
バリアフリー実現は難しい
→だからこそ必要

【研究背景】

いろんな人に自分の作品を見てほしい

【研究目的】

グローバル化する社会
芸術面でのエンタメの昇華
スポーツ面でのオリンピックを
アートでも広げたい

【社会的意義】

障害者と健常者との間の
差やコミュニケーションの
齟齬を芸術で埋める
実際に調べることにより、目
の見えない人の世界を少し知って、相手のことを考
えられるようになる。
新たな美術史の発見が
できるかもしれない

現在行われていること

東京都美術館「障害のある方のための特別鑑賞会」

…事前申込制、付添人以外の健常者NG

ワークショップ

…「健常者と視覚障害者の対話で感じる世界の違いを楽しむ」

…事前申込制

誰もがいつでも鑑賞できる「美術館」のような環境をつくりたい
健常者も障害者も同じように感じている世界を共有したい！

また、これまでの研究では…

作品形態	物	高さの基準	説明	作品理解
油絵(11点)	人物	明度	不足	失敗
棟方志功版画 (2点)	人物	二値化	十分	成功
マルク・シャガール 『アレコ』背景画	風景	明度	十分	失敗
藤朝山作 『嘔牛』彫刻	牛	彫刻	不足	成功

手で触れる「人物」「身近なもの」
はっきりと2種類にわかれる凹凸の作品
彫刻の作品がわかりやすい

ギャラリーTOM

人物

盲学校の生徒の方が過去
に作られた優秀作品

たどると作品を
触ることができる
手すり

手のモチーフ
で平和を
表現した作品

※撮影許可をいただきました。

実際に視覚障害者のための美術作品を展示をしている
ギャラリーTOMに行った。

実際の展示のほかに「触察本」というものが
公開されており、目が見えなくても歴史的絵
画を展示のように鑑賞できる本が製造されて
いた。

⇔ギャラリーTOM限定のものだった

【ギャラリーTOMに行ってわかったこと】
作品を粘土で作り、ブロンズ像にして触っても
傷がつかないようにしている。
目が見えなくてもスムーズに作品が
鑑賞できる設計になっている。
渋谷駅から徒歩15分で展示室は二部屋。

視覚のバリアフリーを前提とした「誰もが感覚を共有できる」
作品を作り、大きな美術館の展示まで発展させたい！

そこで作品を作って、三人の健常者に目隠しをして鑑賞してもらい、
以下の質問をした。



Qこの作品は何だと思えますか？
Qこの作品をどう感じましたか？
Q説明を聞いてどう思いましたか？

この作品は、「手」です。平面から突き出た指は壁を超えてる力を表現しました。

Qこれは実用できそうですか？



手だとわかった。平面から突き出ていることも感じた。
美術館全体はできないかもしれないけど、ワンコーナーならできそうだと思った。

T氏(女・16歳)



角があるなって思って指っぽかったので数えたら5本あったので手だとわかった。

Y氏(女・16歳)



すぐに手だと思った。素材もわかった。平面から出てることはわからなかったが、言われ納得した。人それぞれの感性なのでわからなくても面白いと思った。

A氏(女・15歳)

展示に肯定的な意見が多い→小規模な展示からの発展
今回の試験で制作側としてわかったこと

メリット

・工程が少ない→作りやすい ・実物と同じ形→正確に伝わる

デメリット

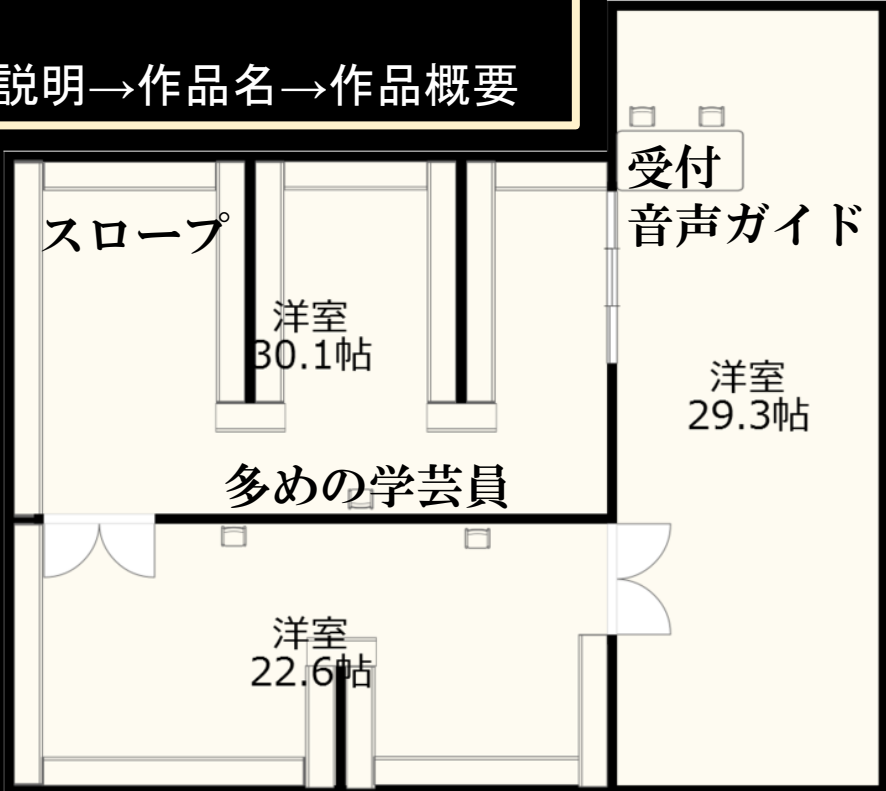
・触るともろくなる ・ブロンズが高い

→誰もがみれるようにと専用予算を組んでおく

実際に展示するとしたら

音声ガイド
道案内→作品の形状説明→作品名→作品概要

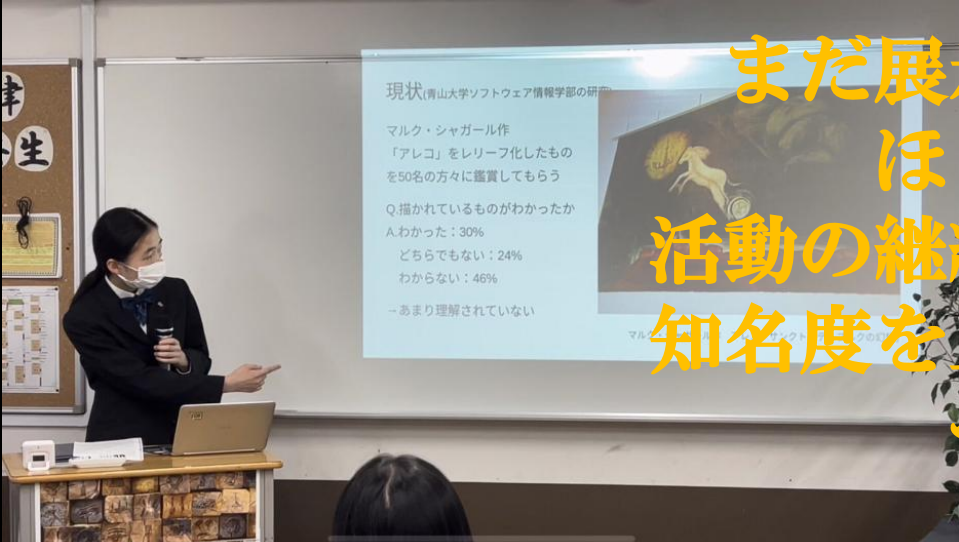
- ・スロープの数を増やして
- ・たくさんの作品が展示できるようにする
- ・床に筋などを引いて点字ブロックのようなものを展示室にいれる
- ・メジャーな美術館に
- ・触察本を置き、気軽に触れられるようにする



→この設営に、先ほどのような作品を飾れば「誰もが楽しめる美術館」も夢ではない！

大きな美術館での展示を目指すためには、我々が「目が見えない人のための美術」の知名度を上げるべき

実際に学校の文化祭で活動をプレゼンした



まだ展示の実現に
ほど遠いため
活動の継続とともに
知名度を上げていく
べきである